

超高齢社会に対応した生涯学習の在り方について

～超高齢社会において、人々が世代を超えて、ともに豊かに生きる
ためには、生涯学習の視点からどのようなアプローチができるのか～

(中間案)

平成 28 年 3 月

愛知県生涯学習審議会

はじめに

日本は世界で最も高齢化の進んだ国である。平成 19 年には、65 歳以上の高齢者（以下「高齢者」という。）の割合が 21%を超えて、世界で最初に「超高齢社会」が到来している。その後も高齢者の割合は増え続け、平成 25 年には 25.1%となり、実に日本の人口の 4 人に 1 人が高齢者となっている。

高齢化の進展について、本県も決して例外ではなく、全国的にはその進展は遅い方であるが、平成 24 年にはその割合が 21.3%（国は 24.1%）となり、21%を超えて「超高齢社会」を迎えている。そして、平成 25 年版高齢社会白書（内閣府）によると、平成 52 年には 32.4%まで上昇し、およそ 3 人に 1 人が高齢者となると予測されている。

本来、長寿というのは人類の永年にわたる夢である。医療技術の飛躍的な進歩や社会、経済の発展など様々な要因により、これを実現した社会は人々が待ち望んだ社会であり、長寿社会の到来は誇るべきものであるはずである。しかしながら、それが「課題」として捉えられる背景には、高齢者に対して、「既に役割を終え、社会から支えられる者である」というイメージがあることが理由の一つであると考えられる。

しかし、私たちの周囲を見ても、非常に多くの健康な高齢者がいる。実際に本県の「健康寿命」（平成 22 年）は男性が 71.74 年で全国 1 位、女性は 74.93 年で全国 3 位となっており、「健康長寿高齢者」は 65 歳以上の高齢者の 83.7%にのぼり、8 割以上が日常生活を送るのに特段支障のない高齢者である。

さらに、高齢者に対して否定的なイメージがある一方で、高齢者には知恵と経験という何物にも代え難い貴重な財産がある。超高齢社会における最大の財産は高齢者自身であり、高齢者はそれぐらい大きな能力を潜在的に有している。こういうイメージを持てば、超高齢社会に対する見方が大きく変わってくるはずである。

世界的にも例を見ない、いまだかつて誰も経験したことのない超高齢社会において、人々が世代を超えて、ともに豊かに生きるためには、生涯学習の視点からどのようなアプローチができるのか。長寿を意味あるものとするため、与えられた時間をどのように使うかは各個人の自由であるが、様々な活動を通じて、社会に参画していきたいと思う人が少なからず存在している。

本報告書は、そうした人々のニーズに応え、社会参画に繋げていくにはどのようにすれば良いのか、これまでの地縁・血縁的なつながりから、地縁・血縁に留まらない現代的な新たなつながりやコミュニティを創り出していくにはどのようなことが必要であるのかを取りまとめたものである。市町村等において、超高齢社会における生涯学習の在り方を考える上での、施策の参考となることを期待する。

目 次 (案)

第1章 超高齢社会の現状について

- 1 愛知県における高齢化の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
 - (1) 本県全体の状況
 - (2) 地域別の高齢化の状況
- 2 愛知県における地域活動の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
 - (1) 地域活動の参加経験
 - (2) 参加した地域活動
- 3 高齢者の社会との関わり・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
 - (1) 就労に関する意識
 - (2) 社会参加活動への意識
 - (3) 自主的な活動と生きがいの有無

第2章 超高齢社会における生涯学習の意義

- 1 生涯学習の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
- 2 高齢者の特長・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
 - (1) 豊かな経験と知恵
 - (2) 喪失の経験
 - (3) 他者との関わり
- 3 超高齢社会における生涯学習の意義と期待される役割・・・・・・・・13

第3章 超高齢社会に対応した本県における取組

- 1 充実感の創出や健康の維持に向けた取組・・・・・・・・・・15
- 2 世代間交流の促進や地域への貢献に向けた取組・・・・・・・・・・20

第4章 県内の市町村等における先進的な取組	
1 世代間交流の促進に向けた取組	22
2 地域への貢献に向けた取組	26

第5章 超高齢社会に対応した生涯学習の在り方	29
------------------------	----

資料編

高齢者等の活動等に関するアンケート	37
・ 高齢者の活動等に関するアンケート	
・ 青年の活動等に関するアンケート	
市町村における市民大学等（高齢者大学等）の設置状況	49
報告書作成に向けた検討経過	57
愛知県生涯学習審議会委員名簿	58